

# 反帝戦線

№18

1969  
2.3

## 社会主義学生同盟全国委員会

世界二二四回同様の軍事の下、七十年来の歴史、日本軍閥の王

×同様に国内で

- I. 沖縄＝日本の侵略的軍事地代用
- II. 米軍基地拡大
- III. 米軍政打倒
- IV. 日米交渉

。終局の行方不明、  
。沖縄人民の建物の下、2.4ヤネズミの手いぬま

一、日米交渉で三大交渉に「米軍基地の撤去」

昨年11月9日未明、ベトナム侵略、マニラ反動の抑えた、  
米軍基地撤去の要求する手いぬまの軍事地代用、  
ベトナム人民の半二回ベトナム軍勢抑えては、米軍  
日米交渉の「米軍基地撤去」は、米軍基地の侵略的軍事地代用、  
ベトナム人民の半二回ベトナム軍勢抑えては、米軍  
日米交渉の「米軍基地撤去」は、米軍基地の侵略的軍事地代用、  
ベトナム人民の半二回ベトナム軍勢抑えては、米軍

二の様な米軍の沖縄基地の現存の必要性は七十年来の歴史で、  
米軍基地撤去の要求する手いぬまの軍事地代用、  
ベトナム人民の半二回ベトナム軍勢抑えては、米軍  
日米交渉の「米軍基地撤去」は、米軍基地の侵略的軍事地代用、  
ベトナム人民の半二回ベトナム軍勢抑えては、米軍

昨年11月11日の朝、米軍基地撤去の要求する手いぬまの軍事地代用、  
ベトナム人民の半二回ベトナム軍勢抑えては、米軍  
日米交渉の「米軍基地撤去」は、米軍基地の侵略的軍事地代用、  
ベトナム人民の半二回ベトナム軍勢抑えては、米軍

米軍基地撤去の要求する手いぬまの軍事地代用、  
ベトナム人民の半二回ベトナム軍勢抑えては、米軍  
日米交渉の「米軍基地撤去」は、米軍基地の侵略的軍事地代用、  
ベトナム人民の半二回ベトナム軍勢抑えては、米軍

和の勢力の一大政治勢力（前江、P.35）などには、  
米軍基地撤去の要求する手いぬまの軍事地代用、  
ベトナム人民の半二回ベトナム軍勢抑えては、米軍  
日米交渉の「米軍基地撤去」は、米軍基地の侵略的軍事地代用、  
ベトナム人民の半二回ベトナム軍勢抑えては、米軍

### 二、終局の行方不明と米軍政打倒

新に公布されたようにして、終局の行方不明は、  
米軍基地撤去の要求する手いぬまの軍事地代用、  
ベトナム人民の半二回ベトナム軍勢抑えては、米軍  
日米交渉の「米軍基地撤去」は、米軍基地の侵略的軍事地代用、  
ベトナム人民の半二回ベトナム軍勢抑えては、米軍

米軍基地撤去の要求する手いぬまの軍事地代用、  
ベトナム人民の半二回ベトナム軍勢抑えては、米軍  
日米交渉の「米軍基地撤去」は、米軍基地の侵略的軍事地代用、  
ベトナム人民の半二回ベトナム軍勢抑えては、米軍

米軍基地撤去の要求する手いぬまの軍事地代用、  
ベトナム人民の半二回ベトナム軍勢抑えては、米軍  
日米交渉の「米軍基地撤去」は、米軍基地の侵略的軍事地代用、  
ベトナム人民の半二回ベトナム軍勢抑えては、米軍

米軍基地撤去の要求する手いぬまの軍事地代用、  
ベトナム人民の半二回ベトナム軍勢抑えては、米軍  
日米交渉の「米軍基地撤去」は、米軍基地の侵略的軍事地代用、  
ベトナム人民の半二回ベトナム軍勢抑えては、米軍

IV、「内政の善悪は、油糧の占める、比隣地位一  
「内政」の善悪は、油糧の占める、比隣地位一  
「内政」の善悪は、油糧の占める、比隣地位一

の権、由りて、初年守保条約締結の、は自衛  
の権、由りて、初年守保条約締結の、は自衛  
の権、由りて、初年守保条約締結の、は自衛

三、日本帝國主義と油糧  
初年守保条約締結の、は自衛  
初年守保条約締結の、は自衛  
初年守保条約締結の、は自衛

「油糧返還」に依りて、  
「油糧返還」に依りて、  
「油糧返還」に依りて、

「油糧返還」に依りて、  
「油糧返還」に依りて、  
「油糧返還」に依りて、

「油糧返還」に依りて、  
「油糧返還」に依りて、  
「油糧返還」に依りて、

此の自由と平等、  
此の自由と平等、  
此の自由と平等、

「油糧返還」に依りて、  
「油糧返還」に依りて、  
「油糧返還」に依りて、

「油糧返還」に依りて、  
「油糧返還」に依りて、  
「油糧返還」に依りて、

「油糧返還」に依りて、  
「油糧返還」に依りて、  
「油糧返還」に依りて、

「油糧返還」に依りて、  
「油糧返還」に依りて、  
「油糧返還」に依りて、

「油糧返還」に依りて、  
「油糧返還」に依りて、  
「油糧返還」に依りて、







六、おわりに――社青同解放派の「難燃」的「沖繩斗争論」のデタラメさとその「観念性」

以上革共同両派にみられる「沖繩斗争論」の誤謬について、触れてきたが、いずれも日共の「対米従軍論」に対して表裏の関係を有す。

社青同解放派は「革命」論を、一応それなりに「沖繩斗争論」を「展開」しているが、別に与りたてて、取り上げるに値しないものである。しかし、我々に対して「プロトは」、「反帝ナシヨナリズム」であり、「返還を基調とする」など、また「米軍ナシを本格的批判」的「批判」を展開しているの、かんたんにとりあげておく。

結論的にいへば、解放の沖繩斗争論は、帝国主義論を欠落したものであり、「革マル」「人民解放論」「条文解釈主義」と本質的に同一であり、「一國革命論」に帰着するのである。沖繩の解放とは「祖国復帰」ほどは毛頭なく、日本と沖繩を結びひとつのプロレタリア革命をいってあり、ひとつの社会主義共和国をいって受けねばならぬ(2)などといっている。すべてのセクトに共通していえるが、解放も「米軍」抜きに「沖繩人民解放」をいって、プロレタリア闘争を欠けたものになる。だから、「沖繩斗争」の論点が「日琉」同の「プロレタリア運動」に後分業化せしめられた。一つの社会主義共和国などとは、解放の「過渡期社会論」の欠落を「米軍」に他ならず、「過渡期」とは何から？「プロレタリア革命」とは何から？のわからぬおかしなものである。

社青対比に対する「反帝ナシヨナリズム」という根拠は次である。引用が長くなるが、「プロト」は「階級対立の中から生じた反革命階級同盟を實踐的に対象にしている。……日本資本家階級と米帝との関係の構造――を把握できず、せいぜい日共の「対米従軍論」「対米」日帝の政治的動向、また「自立」を対置して「反帝ナシヨナリズム」に二面的に對立してしまふに過ぎず、従って、あくまで、沖繩の矛盾を「民族、国境の分断」に力点を置いて見、加えて、「極東の平和と安全」という基本方針に「返還」の要求を突きつけるならば「絶対的對立」になる。たまたまこの「過渡期」に「米軍」的方針をたたくのである(「革命」)。

これは全く我々の政治主張を知らぬといふにはなほ足りない。これは中核に対する批判が、ほんまに我々の意見をピンポイントを突いてくる。我々社「沖繩」をアメリカ帝国主義の軍事的主義に米軍政を批判して「米帝のアジア戦略」「世界戦略の発微の現実に」をいっている。そうしたところで、米軍打倒の進行、米軍政府打倒を実現していくのである。

沖繩問題の核心は「日本反革命階級同盟のもとでの沖繩労働階級、人民、いって諸口労働階級、人民の悲愴にあり」といっても、それだけでは、解放自ら批判する「米軍の沖繩人民の悲愴性」「三文字の筆で描き、沖繩解放を一般的人間的(2)として表現する」などである。また「青年ヘリ」アン(3)に「さ」以上。

註 次々以下では、日共の沖繩斗争論を批判し、その中で、更に沖繩斗争の革命的發展のために、我々の意見を更に深化してゆく。近く、解放、革マルを中心にして、鉄「書解批判」の「さ」全口通達で提表する。

スケジュール  
2月4日 沖繩一東大―安全―春斗大会  
3月25日 S.S.L 全日理論会宿  
3月26日 S.S.L 全日大会  
3月27日 全日連帯時二十回大会  
3月28日  
(予定)